COBALT-SERIES

花月夜にみる幻想は……

一藤木杏子

集

いっとうぎ・ようこ

本名・渡辺かおり。1962年2月17日、横浜生まれ。水瓶座、AB型。'83年第1回コバルト・ノベル大賞に『たとえば、十九の時のアルバムに』が佳作入選。趣味は旅行、アニメ、英会話。著書に『くどき上手なピーターパン』『ラスト・シーンでほほえんで』『ファースト・シーンはろまんてぃっく』『恋のむこうにオフロード』『恋のルートをかけぬけて』『風色ロマンスごいっしょに』『エンドマークは乙女ちっく』『えぴろーぐはファーストKISS』『½・フシギの七日間』『時の彼方でだきしめて』がある。

花月夜にみる幻想(ゆめ)は……

COBALT-SERIES

1991年8月10日　第1刷発行

★定価はカバーに表示してあります

著者　一藤木杳子

発行者　若菜　正

発行所　株式会社　集英社

〒101-50
東京都千代田区一ツ橋2—5—10
電話　東京　(3230) 6268 (編集)
(3230) 6393 (販売)
(3230) 6080 (製作)

印刷所　図書印刷株式会社

© YÔKO ITTÔGI 1991

本書の一部あるいは全部を無断で複写複製することは、法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。
落丁・乱丁の本はご面倒でも小社製作課宛にお送りください。送料は小社負担でお取り替えいたします。

ISBN4-08-611563-8 C0193

COBALT-SERIES

花月夜　める幻想

一藤木香子

集英社

目次

花月夜にみる幻想は……

I 葉桜……8
II 守護石……34
III 花降る里……77
IV 刻印……108
V 朱羅……137
VI 花月夜……162
〈番外編〉ファースト・デートをもういちど……207
あとがき——おしゃべり通信IV……245

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

流花
神代の"魔を封じる力"を受けつぐ不思議な少女。
レカ
流花の憧れが生みだした分身。流花とは正反対の奔放な性格。

キャラクター紹介
俊吾
流花のふたいとこで幼なじみ。武芸百般に通じている。
朱羅
数百年前に封じられた魔道の者。だが、あるきっかけで封印から解き放たれて…。

イラスト／田村みゆき

花月夜にみる幻想(ゆめ)は……

I　葉桜

1

桜――さくら。

校庭の桜はすでに葉桜。

緑の葉をつけた枝から、わずかに残った花びらがふんわり舞い落ちる。明るい陽光の中の、儚い風景。

「こらっ、神代流花！」

放課後の進路指導室。名を呼ばれて、あたしははっと窓の外から視線を戻す。

むかいあった眼の前には担任の横田先生。あきれたような顔つきで、うっほんと咳ばらいして口を開く。

「今、何やってると思う？　のんきに窓の外など眺めてる場合じゃないだろうが」

「はいっ、すみません」

あたしはあわててむきなおり、素直に頭を下げる。

確かに。葉桜に見とれて、もののあわれにひたってる場合じゃなかったんだわ。
なんと、今は進路面談の真っ最中。
高三の春。いわゆる〝受験生〟になって、最初の個人面談なんだ。
「さて、と」
先生、ノートを開き、はさんであったボールペンを取りだす。
そして、正面からあたしを見てたずねてくる。
「神代は進路の希望というのは、どんなものなんだ？」
「え」
いきなり聞かれ、眼をまるくするあたし。
「あの、どんなものか、といいますと……」
「だから、こういう職業につきたいとか、短大にいきたいとか、四年制がいいとか」
「え、えーと……」
思いきり返答につまってしまう。見事なくらい……真っ白。
とまどうあたしを見て、横田先生、アプローチの仕方を変える。
「それなら、もっと身近なレベルでいい。やりたいことはあるか」
「えっと、今のところ、これといってないんですけど……」
「それじゃ、特技とか」

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

自分で自分に首をひねるあたし。
……あたしの特技って何かしら……。
先生、あきれた顔つきで、ボールペンで机をこつこつたたく。
「つまりは、まだ何も定まっていない――進路のめどは何もたっていない、ということか」
「はい……すみません」
「いや、べつに、謝らなくてもいいが、いよいよ三年だからなあ。進路の方向くらいは決めておかないと」
身をすくめて、しょんぼりしてしまうあたし。
「もう志望校をはっきり決めて、目標にむかってる生徒も多いというのに」
「ええっ、もう!?」
「もうって、三年の春だろう。遅いくらいだ」
「……」
どうもあたしって、のんびりした地方の（はっきりいって田舎）、そのまたのんびりした高校生みたい。
あたしがあんまりしょんぼりしてるせいか、横田先生、なぐさめてくれるように言う。
「まあ、かといって一分一秒を争うものではないし、これからじっくり考えてみるように。今日はこれでよし」

「ありがとうございました」
解放宣告にほっとして席を立ち、礼をして指導室を出る。
指導室の外には、次の面談の順番の女の子の姿。
五十音順、神代の次は桐野さん。彼女に軽く手を上げて、あたしはおも～い足どりで階段を下りていく。
ふと腕時計を見る。わ、面接に呼ばれてから十分とたってない。
その前の織田くんの面談の時は、あたし、二十分以上、指導室の前で待っていたのに。
……でもまあ、あたしの進路指導が超スピーディに終わってしまったのも、もっともよね。
ぜーんぜん方向もかたまっていないんだもの。担任の先生だって指導のしようがない。
それにしても、ちょっと――かなり――ショック。
今まであまり意識してなかったけど。あたしって、これといった特技もやりたいこともないなんて……。
どーんと落ちこみつつ、廊下を歩いていると。
「る・か♡」
階段のむこうからかけられた明るい声に、あたしは顔を上げる。
「ああ、真由子」
階段の上に立っていたのは、シャープペンとバインダーを手にした篠田真由子。

三年の組は二年のまま持ちあがりなので、高校の間、ずっと一緒のクラス。あたしのいちばんの親友なの。

「どーしたの、ブルーな顔しちゃって」

軽やかな足どりで階段を下りてくる真由子に、あたしは肩をすくめてみせた。

「今日ね、進路相談だったの。今、面接が終わって指導室からひきあげてきたとこ」

あらら、とまばたきする真由子。

「進路相談、かあ。そのうちにあたしもまわってくるなぁ。で、どうだった？」

苦笑いして首を横にふる。

「ぜーんぜんダメ。そもそもあたし、どういう方向に進んでいいのか、自分でもわかんないんだもの」

思わず、こぼれてしまうため息。

「真由子は？　もう方向とか、かたまってる？」

「んー、いちおうね。あたし、ジャーナリストになりたいんだ。だからそういう関連の大学に行こうと思ってる」

そうね、とあたしはほほえみながらうなずく。

「真由子は一年の頃からそう希望していたものね。すごいな、ちゃんと自分の方向が定まってるんだ」

「なれたら、よ。――なるつもりだけど」
静かだけど、決意のこもった口調。
普段より大人びたその表情に、あたしはなんとはなしに気後れしてしまう。
横田先生が言ってたな。もうとっくに目標を決めて、それにむかって努力してる子も多いって。
なのに、あたしときたら……。
「……面接終わって、ショックだった。あたし、目標を定めるどころか、自分が何やりたいかさえわかんないなんて」
「あせること、ないわよ」
うつむくあたしに、真由子、やさしく笑う。
「あたしはたまたま昔から、興味が一定方向をむいていただけ。むずかしい問題だもん、そんな簡単には決められないわよ」
「うん……そうね」
真由子のナイスフォローに、ちょっと浮上する思い。
と。ふと何かを思い出したように、真由子は指をはじいた。
「いっけない、あたし、校内取材の途中だったんだ」
ジャーナリスト志望の真由子は現在、敏腕新聞部員として活躍中なんだ。

「今日はどこの取材？」
「本日はね、サッカー部。今度、県大会に出場するでしょ。練習風景、取材してさ、ついでに部員のみんなに意気ごみでも語ってもらおうと思って」
「なるほどお」
「流花はこれからどうするの？」
あたしは腕時計に眼をやり、ちょっと考えこむ。
「……そうだな、まだ時間早いし、弓道部、出ようかな」
途中――二年の春からはじめた弓道。うまいとはお世辞にも言えないけど、好きなんだ。
いいわね、と真由子、うなずく。
「そのうち弓道部にも取材にいくわ。近いうちに合宿、あるんでしょ？」
「うん。来月の上旬」
「わが校ではじめて全国大会に出場した中禅寺慎吾もいることだし、話題には事欠かないもんね」
そうね、とあたしは微笑する。
あたしのふたいとこで、幼なじみの中禅寺慎吾くん。
慎吾くんは去年、前部長の天瀬先輩とともに、個人の部で全国大会に出場し、いちやく校内で有名人になってしまったの。

「んふふ♡」
話が慎吾くんのことになって。なぜか真由子、意味シンに笑う。
「ついでにスクープもしたいものだわね～」
「スクープ？」
きょとんとするあたしの顔をのぞきこむ。
「そうよお。弓道部のホープ、中禅寺慎吾のロマンス！　お相手は同じ弓道部のふたいとこ、ってね」
「――」
絶句する、あたし。
「ま、ま、真由子ってば！」
「あらあ、今さらてれることないじゃない。流花と中禅寺くんっておにあいよぉ♡」
「そ、そんなっ……」
真っ赤になってしまうあたしに、真由子、ウィンクして続ける。
「だってさ、ふたりは一度は婚約までした仲なんでしょ？」
「あれは慎吾くんのおじいちゃんのぐあいが悪かった時に、泣きつかれて断りきれなくて……」
結局、あの婚約は数日で解消してしまったけれど。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com